

令和7年（2025年）度行政評価シート【個表】 令和 7 年 6 月 20 日

評価対象事業		評価者	環境センター担当課長 鈴木 真理	
環境-26	笹田リサイクルセンター管理運営事業	■ 自治事務	主管課	環境センター
		□ 法定受託事務	関連課	ごみ減量対策課
総合計画上の位置付け	分野	3-(3) 生活環境	施策の方針	3-(3)-①3Rの推進・ごみの適正処理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	資源の有効活用を図り、廃棄物の再使用、再生利用に関する啓発及び推進を図るため。
効果	ごみの排出抑制、資源の再使用、再生利用が図られる。

2 令和6年(2024年)度を実施した事業の概要

・廃棄物の減量・資源化に関する啓発事業を実施するとともに、笹田リサイクルセンターの保守管理及び維持管理を行った。
--

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	廃棄物の減量化・資源化啓発事業	再生利用施設啓発業務委託	展示、学習会及び教室等の参加人数 (人)	2,682 / 1,500	5,131 / 5,131	1,700 5,296	179%
02	環境センター維持管理業務	光熱水費、施設維持等消耗品費等	-	- / -	54,056 / 60,247	- 68,674	
03	環境センター維持修繕事業	維持修繕	計画停止を除く施設停止日数をゼロとする。	100 / 100	70,204 / 72,097	100 83,361	100%
04	不燃物・可燃物処理及び資源化事業	資源物選別処理等業務委託、運転保守管理業務委託	ビン・カン類搬入量に対する処理量 (%)	100 / 100	104,412 / 104,511	100 113,269	100%
05				/			
06				/			
07				/			
08				/			
09				/			
10				/			
		財源内訳	国県支出金	/			
			地方債	25000 / 27,400	23,900		
			その他特定財源	65661 / 48,612	42,524		
			一般財源	143142 / 165,974	204,176		
		事業費の合計 (千円)		233,803 / 241,986	270,600		
		人件費 (千円)			19,797	20,690	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	2.8	2.4	1.5	1.5	2.1	2.1
会計年度任用職員	2.0	3.0	4.0	4.0	2.0	2.0

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	廃棄物の減量化・資源化啓発事業	目標を達成し、3Rの推進に寄与している。	廃棄物の減量化・資源化に寄与したことで、妥当性は認められる。	特になし、今後も展示、学習会及び教室等を開催していく。
02	環境センター維持管理業務	施設を適正に運営するための維持管理であり、指標の設定は困難である。	施設の維持管理に寄与したことで、妥当性は認められる。	電灯等のLED化、空調設備等の更新。
03	環境センター維持修繕事業	適切な維持修繕を行い、100%の稼働率に寄与した。	施設の維持管理に寄与したことで、妥当性は認められる。	将来行われる、長寿命化工事までの計画的な修繕計画。
04	不燃物・可燃物処理及び資源化事業	適切な運転・選別を行い、100%の処理率に寄与した。	資源の再使用、再生利用に寄与したことで、妥当性は認められる。	資源物の処理に関する包括的委託の検討。
05				
06				
07				
08				
09				
10				

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない	
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	1 実施済み	
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない	
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある	
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	4 法令等により、市に実施が義務付けられている	
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である	
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-2 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済	
			協働実施済の場合のパートナー NPO法人 鎌倉リサイクル推進会議

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☐ 拡充	☐ 改善・変更	☒ 現状維持	☐ 縮小	☐ 休止・廃止
一般廃棄物を受入れることから、適正かつ安定的な処理が必要である。 機能を維持するために、計画を立て適切な維持管理に務めていく。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	展示、学習会及び教室等の参加人数						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
3Rの推進するためには、行動する市民を育成することが重要であることから、展示、学習会及び教室等の参加人数を指標とした。	目標値	750	750	800	1,200	1,500	1,700	
	実績値	848	975	1,930	3,126	2,682		
	達成率	113.1%	130.0%	241.3%	260.5%	178.8%		

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名	鎌倉市							
他市実績								

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	廃棄物の処理は市町村の固有事務であるため、収集や処理の方法が市町村によって異なります。このため当該事業実施に伴う他市との比較はできません。
--------------------------	---